

先生方のための徹底入試対策講座

第1回 質問とその対応

～「疑問点は今日のうちに解消しよう」は学力を伸ばす???～

はじめまして、大竹真一です。これからほぼ毎月、拙文をお目にかけることとなりました。表題は、徹底入試対策講座ということですが、日頃から思うところをとりとめもなく書き連ねますので、どうぞお気軽にお付き合いいただけますようお願いいたします。

さて、第1回の今日は少し硬い話題から入ることとします。

1 わからないことはすぐに質問する??

ある予備校のパンフレットに、「授業でわからないことは後に残さず、すぐに質問することが重要です」と書いてありました。生徒の数学の質問の対応は、なかなか難しい問題点を含みます。質問することとそれにすぐに答えることとは、また別問題ですね。どのような対応がいいのでしょうか。

.....

質問にも、いろいろあります。

「先生、ここの計算がわかりません」

見ると、単なる式の変形だけなのです。「計算してごらん」と(優しく!)言い、紙と筆記具を渡します。多くの場合、横で見ているだけで、生徒の自力でできてしまうのです。

「わかりました」と言って帰ろうとすると、(ここからが大竹先生の質問タイムです)「なぜ自分でできるのに、考えもせずに“わからない”と言ってくるの?」

考えるのは面倒だから誰かに考えてもらおうという姿勢は、本人の自信のなさ、怠惰でしょうか、それとも、質問に時間を惜しまず答える優しい先生によって養われたものでしょうか。

質問に答えることが、ときには、生徒自らが考える力を失わせる!?

ことにもなりかねません。

2 答えていい質問、答えていけない質問

「授業でわからないことを、すぐに質問する」と、少なくとも、わからなかったことをじっくりと考える機会を失ってしまうことは確かです。その上、自分で考えて理解できたときの喜び(これは実際に経験してみないとわかりませんよね)も奪い去ってしまいます。家に帰ってから

わからないことを、もう一度ゆっくりと考えてみる、時には数日考えてみる、自分で考えてわかることも少なくない

はずです。

.....

数学の勉強にはさまざまな要素があります。入試問題を解くということに限っても、

- ①問題を読んで内容を理解すること
- ②その内容に応じて知識・経験・推論や理詰めを手段に方針もしくは結論を考察すること
- ③さらにそれを計算や証明を経て答案の形にまとめ上げること

すなわち、読み取ること、考えること、表現すること、ですね。(おやっ、これは現代国語?)

質問もこの要素に応じてさまざまです。知識、経験が不足していることが原因の疑問、質問なら、いくら考えても解決できないわけですから、速やかに答えるべきでしょう。しかし、考えるべきこと、考えればわかる可能性(その生徒の学力によりますが)を含んだ質問なら、考える機会を奪わないような対応が必要です。

質問は受けるけど、そうたやすくは答えない

生徒「この問題わかりません」、僕「どうわからないの?」ここから始まります。ときには、答えないことも質問対応です。また、考えた経験のない生徒(かなりの割合で存在します)には、一緒に考えることを経験させることも大切です。

学校法人 河合塾 数学科専任講師 **大竹真一**

(次回は、「第2回 定理・公式の証明(1)～ロピタルの定理を使ってもいいですか?～」を予定しています。)